大谷さんにまつわる思い出

渡部　力

大谷さんがプラズマ研（後の核融合研）におられた頃、当時の研究所長高山さんの肝入りで原子分子データの収集が行われていた。核融合反応で重要な役割を担うローソンの境界条件「密度＊温度＊持続時間」が一定の値以上でなければならない。そのために重要な過程に高励起一電子多価イオンからの紫外線（X線）の発光を押さえる事が鍵となる。このために関連する反応素過程のデータを収集することが必要となるというものである。当時、高柳和夫、鈴木洋、金子洋三郎、渡部力はプラ研宿舎や名古屋の飲み屋で物理の話は勿論、色々の問題を話し合った。その一つに 1979 年に京都で開催が予定されていた第 11 回イクピック（原子衝突国際会議）の資金調達を話し合った。同じ年に宇宙線国際会議が予定されていた。学術会議の主催を取り付けるには日本物理学会の推薦がいる。物理学会で宇宙線研究者と論戦交わすのは容易では無い。たしか金子さんの発案で高柳、大谷、金子、鈴木、渡部の名前で新しい学会の設立を呼びかけようという話になった。勿論その下地には高柳さんが出していたガリ版刷りの冊子を定期的に発行などの活動が下地としてあった。

こだまの四人割引切符を買って名古屋駅の地下街でワインとチーズを買い込みさらに具体的な問題を話し合った。原子衝突研究協会の設立総会は福島県郡山で行われた物理学会のあと仙台東北大学の艮稜会館（ごんりょうかいかん）でおこなわれた。その後研究協会は原子衝突学会と名前を改め現在に至っている事は皆様ご承知の通りである。

大谷さんが世話をされていたプラ研での実験にNICEの実験がある。NICEとは「naked ion collision experiments」の略である。これには都立大の金子、阪大の木村さんらが参加していた。この中で私の記憶にあるのは一電子多価イオンの電子移行の測定である。この実験及び理論計算との比較は良い一致をした。たしかベルリンの ICPEAC で大谷さんは招待講演を行った。

電通大に移られてからも私は大谷、中村研のセミナーに出させて貰っていた。

彼は電通大の彼が制作した装置を YEBISU と名付けたと聞いている。意味するところは（Young Electron Beam Ion Source Unit）という。研究室には恵比寿ビールがおいてあった。

また仙台 ICPEAC では資金集めを担当された。時の理研理事長である有馬朗人氏に募金委員長をお願いした。そしたらその後、時の内閣の文部大臣になられた。私的団体の募金委員長は勤められない。大谷さんは有馬さんに「立場上募金委員長は出来ないので辞めるが、この大谷さんに協力をお願いする」という一文を書かせた。これ各会社にまわって会議の資金を集めた。こういった機転が働くのがいかにも大谷さんらしい。

東京都三鷹市にある杏林病院に大谷さんを訪ねたことがある。のどを病んでおられた。見かけは元気そうであったが、訃報に接したのはそれからまもなくであった。今は但ご冥福をお祈りするだけである。